

(4) 調査結果

ア 予測した事項

① 施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる大気質の状況

a 二酸化いおう

二酸化いおうの調査結果は、表 7.1-8 に示すとおりである。

二酸化いおうの1時間値の二季平均値は0.001～0.002ppmであった。また、調査期間内の日平均値の最高値は地点Fの秋季の0.003ppm、1時間値の最高値は地点Fの秋季の0.008ppmであった。

なお、参考として、全ての調査地点において環境基準（日平均値：0.04ppm、1時間値：0.1ppm）を下回った。

表 7.1-8 二酸化いおうの調査結果

単位：ppm

調査地点		調査時期	秋季調査 H29. 11. 6～12	春季調査 H30. 5. 28～6. 3	二季平均
A	杉並清掃工場	平均値	0.001	0.001	0.001
		最高値	0.001 (0.005)	0.002 (0.005)	0.002 (0.005)
B	神明中学校	平均値	0.001	0.001	0.001
		最高値	0.002 (0.006)	0.002 (0.007)	0.002 (0.007)
C	富士見ヶ丘中学校	平均値	0.001	0.001	0.001
		最高値	0.001 (0.005)	0.002 (0.005)	0.002 (0.005)
D	浜田山小学校	平均値	0.001	0.002	0.002
		最高値	0.002 (0.006)	0.002 (0.007)	0.002 (0.007)
E	高井戸第三小学校	平均値	0.001	0.001	0.001
		最高値	0.001 (0.006)	0.002 (0.007)	0.002 (0.007)
F	上北沢小学校	平均値	0.002	0.001	0.001
		最高値	0.003 (0.008)	0.002 (0.007)	0.003 (0.008)

注1) 平均値は、1時間値の期間平均値を示す。

注2) 最高値は、日平均値の期間最高値を示し、併せて1時間値の期間最高値を（ ）内に示す。

注3) 二季平均欄の最高値は日平均値の二季最高値を示し、併せて1時間値の二季最高値を（ ）内に示す。

注4) 環境基準（環境基本法に基づく「大気の汚染に係る環境基準について」）は、1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であることである。

b 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の調査結果は、表 7.1-9 に示すとおりである。

浮遊粒子状物質の 1 時間値の二季平均値は $0.016 \sim 0.020 \text{ mg/m}^3$ であった。また、調査期間内の日平均値の最高値は地点 F の春季で 0.041 mg/m^3 、1 時間値の最高値は地点 F の秋季の 0.088 mg/m^3 であった。

なお、参考として、全ての調査地点において環境基準（日平均値： 0.10 mg/m^3 、1 時間値： 0.20 mg/m^3 ）を下回った。

表 7.1-9 浮遊粒子状物質の調査結果

単位： mg/m^3

調査地点		調査時期	秋季調査 H29. 11. 6～12	春季調査 H30. 5. 28～6. 3	二季平均
A	杉並清掃工場	平均値	0.017	0.016	0.016
		最高値	0.030 (0.050)	0.020 (0.045)	0.030 (0.050)
B	神明中学校	平均値	0.020	0.017	0.019
		最高値	0.039 (0.068)	0.022 (0.044)	0.039 (0.068)
C	富士見ヶ丘中学校	平均値	0.019	0.016	0.018
		最高値	0.038 (0.064)	0.020 (0.039)	0.038 (0.064)
D	浜田山小学校	平均値	0.020	0.017	0.019
		最高値	0.040 (0.071)	0.023 (0.049)	0.040 (0.071)
E	高井戸第三小学校	平均値	0.018	0.017	0.017
		最高値	0.035 (0.063)	0.024 (0.054)	0.035 (0.063)
F	上北沢小学校	平均値	0.022	0.018	0.020
		最高値	0.041 (0.088)	0.025 (0.070)	0.041 (0.088)

注 1) 平均値は、1 時間値の期間平均値を示す。

注 2) 最高値は、日平均値の期間最高値を示し、併せて 1 時間値の期間最高値を（ ）内に示す。

注 3) 二季平均欄の最高値は、日平均値の二季最高値を示し、併せて 1 時間値の二季最高値を（ ）内に示す。

注 4) 環境基準（環境基本法に基づく「大気汚染に係る環境基準について」）は、1 時間値の 1 日平均値が 0.10 mg/m^3 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20 mg/m^3 以下であることである。

c 二酸化窒素

二酸化窒素の調査結果は、表 7.1-10 に示すとおりである。

二酸化窒素の 1 時間値の二季平均値は 0.016～0.018ppm であった。また、調査期間内の日平均値の最高値は地点 F の秋季の 0.044ppm、1 時間値の最高値は地点 B の秋季の 0.057ppm であった。

なお、参考として、全ての調査地点において環境基準(1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下)を満足した。

表 7.1-10 二酸化窒素の調査結果

単位：ppm

調査地点		調査時期	秋季調査 H29. 11. 6～12	春季調査 H30. 5. 28～6. 3	二季平均
A	杉並清掃工場	平均値	0.024	0.012	0.0018
		最高値	0.041 (0.054)	0.016 (0.027)	0.041 (0.054)
B	神明中学校	平均値	0.021	0.010	0.016
		最高値	0.039 (0.057)	0.011 (0.020)	0.039 (0.057)
C	富士見ヶ丘中学校	平均値	0.021	0.011	0.016
		最高値	0.037 (0.048)	0.013 (0.022)	0.037 (0.048)
D	浜田山小学校	平均値	0.022	0.010	0.016
		最高値	0.038 (0.052)	0.013 (0.024)	0.038 (0.052)
E	高井戸第三小学校	平均値	0.022	0.011	0.016
		最高値	0.038 (0.049)	0.013 (0.025)	0.038 (0.049)
F	上北沢小学校	平均値	0.025	0.011	0.018
		最高値	0.044 (0.056)	0.014 (0.026)	0.044 (0.056)

注 1) 平均値は、1 時間値の期間平均値を示す。

注 2) 最高値は、日平均値の期間最高値を示し、併せて 1 時間値の期間最高値を () 内に示す。

注 3) 二季平均欄の最高値は日平均値の二季最高値を示し、併せて 1 時間値の二季最高値を () 内に示す。

注 4) 環境基準(環境基本法に基づく「二酸化窒素に係る環境基準について」)は、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であることである。

d ダイオキシン類

ダイオキシン類の調査結果は、表 7.1-11 に示すとおりである。

ダイオキシン類の四季平均値は、0.013～0.019pg-TEQ/m³であった。また、調査期間内の最高値は、地点 C の冬季の 0.030pg-TEQ/m³であった。

なお、参考として、全ての調査地点において環境基準（年間平均値：0.6pg-TEQ/m³）を下回った。

表 7.1-11 ダイオキシン類の調査結果（毒性当量）

単位：pg-TEQ/m³

調査地点		調査時期 秋季調査 H29.11.6～12	冬季調査 H30.1.29～2.4	春季調査 H30.5.28～6.3	夏季調査 H30.8.1～8.7	四季平均
A	杉並清掃工場	0.020	0.022	0.011	0.013	0.016
B	神明中学校	0.023	0.029	0.0072	0.018	0.019
C	富士見ヶ丘中学校	0.019	0.030	0.0081	0.013	0.018
D	浜田山小学校	0.012	0.024	0.0053	0.011	0.013
E	高井戸第三小学校	0.024	0.025	0.0072	0.012	0.017
F	上北沢小学校	0.021	0.025	0.0078	0.012	0.016

注 1）数値は期間平均値を示す。

注 2）環境基準（環境基本法に基づく「ダイオキシン類による大気の大気汚染、水質の水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準について」）は、年間平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下であることである。

e 塩化水素

塩化水素の調査結果は、表 7.1-12 に示すとおりである。

塩化水素の日平均値の四季平均値は、0.0007～0.0009ppm であった。また、調査期間内の日平均値の最高値は地点 F の夏季の 0.0023ppm であった。

なお、参考として全ての調査地点において目標値（1 時間値：0.02ppm）を下回った。

表 7.1-12 塩化水素の調査結果

単位：ppm

調査地点		調査時期	秋季調査 H29.11.6～12	冬季調査 H30.1.29～2.4	春季調査 H30.5.28～6.3	夏季調査 H30.8.1～8.7	四季平均
A	杉並清掃工場	平均値	0.0010	0.0007	0.0008	0.0007	0.0008
		最高値	0.0015	0.0012	0.0012	0.0016	0.0016
B	神明中学校	平均値	0.0010	0.0006	0.0006	0.0007	0.0007
		最高値	0.0017	0.0009	0.0012	0.0010	0.0017
C	富士見ヶ丘 中学校	平均値	0.0010	0.0007	0.0006	0.0007	0.0008
		最高値	0.0015	0.0011	0.0011	0.0018	0.0018
D	浜田山小学校	平均値	0.0009	0.0006	0.0006	0.0007	0.0007
		最高値	0.0015	0.0009	0.0011	0.0012	0.0015
E	高井戸第三 小学校	平均値	0.0009	0.0006	0.0006	0.0009	0.0008
		最高値	0.0015	0.0010	0.0011	0.0019	0.0019
F	上北沢小学校	平均値	0.0011	0.0008	0.0007	0.0010	0.0009
		最高値	0.0018	0.0012	0.0013	0.0023	0.0023

注 1) 平均値は、日平均値の期間平均値を示す。

注 2) 最高値は、日平均値の最高値を示す。

注 3) 四季平均欄の最高値は、日平均値の四季最高値を示す。

注 4) 目標値（大気汚染防止法に基づく「窒素酸化物の排出基準の改定等について」）は、1 時間値が 0.02ppm 以下であることである。

f 水銀

水銀の調査結果は、表 7.1-13 に示すとおりである。

水銀の日平均値の四季平均値は、 $0.0018 \sim 0.0020 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。また、調査期間内の日平均値の最高値は地点 A の秋季の $0.0033 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。

なお、参考として、全ての調査地点において指針値（年平均値： $0.04 \mu\text{g}/\text{m}^3$ ）を下回った。

表 7.1-13 水銀の調査結果

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

調査地点		調査時期	秋季調査 H29.11.6～12	冬季調査 H30.1.29～2.4	春季調査 H30.5.28～6.3	夏季調査 H30.8.1～8.7	四季平均
A	杉並清掃工場	平均値	0.0022	0.0019	0.0018	0.0014	0.0018
		最高値	0.0033	0.0023	0.0021	0.0023	0.0033
B	神明中学校	平均値	0.0022	0.0020	0.0018	0.0020	0.0020
		最高値	0.0028	0.0022	0.0020	0.0027	0.0028
C	富士見ヶ丘 中学校	平均値	0.0019	0.0019	0.0017	0.0018	0.0018
		最高値	0.0024	0.0022	0.0019	0.0022	0.0024
D	浜田山小学校	平均値	0.0021	0.0017	0.0018	0.0019	0.0019
		最高値	0.0027	0.0019	0.0020	0.0022	0.0027
E	高井戸第三 小学校	平均値	0.0020	0.0019	0.0016	0.0016	0.0018
		最高値	0.0025	0.0021	0.0017	0.0021	0.0025
F	上北沢小学校	平均値	0.0021	0.0019	0.0017	0.0013	0.0018
		最高値	0.0026	0.0021	0.0018	0.0023	0.0026

注 1) 平均値は、日平均値の期間平均値を示す。

注 2) 最高値は、日平均値の最高値を示す。

注 3) 四季平均欄の最高値は、日平均値の四季最高値を示す。

注 4) 指針値（環境基本法に基づく「有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値」）は、年間平均値が $0.04 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることである。

② 清掃車両の走行に伴う排出ガスによる大気質の状況

a 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の調査結果は、表 7.1-14 に示すとおりである。

浮遊粒子状物質の 1 時間値の期間平均値は 0.013～0.025mg/m³であった。また、調査期間内の日平均値の最高値は、地点 1 及び地点 4 の 11 月 8 日（水）の 0.043mg/m³、1 時間値の最大値は地点 4 の 11 月 8 日（水）の 0.077mg/m³であった。

なお、参考として、全ての調査地点において環境基準（日平均値：0.10mg/m³、1 時間値：0.20mg/m³）を下回った。

表 7.1-14 浮遊粒子状物質の調査結果

調査日：平成 29 年 11 月 6 日（月）～12 日（日）

単位：mg/m³

調査地点		調査日	6 日 (月)	7 日 (火)	8 日 (水)	9 日 (木)	10 日 (金)	11 日 (土)	12 日 (日)	期間平均
1	桃井第二小学校	平均値	0.027	0.032	0.043	0.021	0.025	0.012	0.010	0.025
		最高値	0.049	0.063	0.066	0.062	0.057	0.048	0.019	0.043
2	高井戸警察署	平均値	0.019	0.022	0.030	0.013	0.017	0.007	0.006	0.016
		最高値	0.029	0.030	0.047	0.041	0.037	0.022	0.014	0.030
3	高井戸西公園	平均値	0.020	0.025	0.037	0.013	0.018	0.008	0.006	0.018
		最高値	0.045	0.046	0.062	0.064	0.047	0.042	0.022	0.037
4	高井戸小学校	平均値	0.025	0.028	0.043	0.016	0.022	0.008	0.005	0.021
		最高値	0.041	0.053	0.077	0.068	0.056	0.020	0.016	0.043
5	ヤマト運輸 高井戸宅急便センター	平均値	0.015	0.018	0.026	0.010	0.013	0.006	0.006	0.013
		最高値	0.028	0.031	0.046	0.027	0.034	0.031	0.018	0.026
6	杉並障害者福祉会館	平均値	0.023	0.028	0.039	0.016	0.020	0.008	0.007	0.020
		最高値	0.039	0.042	0.064	0.059	0.043	0.029	0.017	0.039

注 1) 平均値は、日平均値を示す。

注 2) 最高値は、1 時間値の日最高値を示す。

注 3) 期間平均欄の平均値は、1 時間値の期間平均値を示し、最高値は日平均値の期間最高値を示す。

注 4) 網掛は、各調査地点における日平均値の最高値を示す。

注 5) 環境基準（環境基本法に基づく「大気の汚染に係る環境基準について」）は、1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³以下であることである。

b 二酸化窒素

二酸化窒素の調査結果は、表 7.1-15 に示すとおりである。

二酸化窒素の 1 時間値の期間平均値は 0.024～0.038ppm であった。また、調査期間内の日平均値の最高値は、地点 1 の 11 月 8 日（火）の 0.048ppm、1 時間値の最大値は地点 1 の 11 月 6 日（月）及び地点 4 の 11 月 10 日（金）の 0.068ppm であった。

なお、参考として、全ての調査地点において環境基準（1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下）を満足した。

表 7.1-15 二酸化窒素の調査結果

調査日：平成 29 年 11 月 6 日（月）～12 日（日）

単位：ppm

調査地点		調査日	6 日 (月)	7 日 (火)	8 日 (水)	9 日 (木)	10 日 (金)	11 日 (土)	12 日 (日)	期間平均
1	桃井第二 小学校	平均値	0.047	0.044	0.048	0.035	0.045	0.024	0.021	0.038
		最高値	0.068	0.061	0.057	0.049	0.056	0.042	0.042	0.048
2	高井戸警察署	平均値	0.035	0.041	0.044	0.017	0.036	0.014	0.016	0.029
		最高値	0.060	0.060	0.052	0.036	0.053	0.036	0.047	0.044
3	高井戸西公園	平均値	0.028	0.032	0.040	0.013	0.030	0.009	0.011	0.024
		最高値	0.052	0.051	0.049	0.034	0.047	0.035	0.038	0.040
4	高井戸小学校	平均値	0.031	0.034	0.040	0.026	0.036	0.020	0.017	0.029
		最高値	0.046	0.046	0.047	0.036	0.068	0.036	0.036	0.040
5	ヤマト運輸 高井 戸宅急便センター	平均値	0.038	0.041	0.046	0.020	0.037	0.017	0.016	0.031
		最高値	0.066	0.061	0.054	0.039	0.053	0.035	0.040	0.046
6	杉並障害者 福祉会館	平均値	0.032	0.038	0.042	0.015	0.031	0.011	0.014	0.026
		最高値	0.060	0.058	0.052	0.038	0.051	0.039	0.047	0.042

注 1) 平均値は、日平均値を示す。

注 2) 最高値は、1 時間値の日最高値を示す。

注 3) 期間平均欄の平均値は、1 時間値の期間平均値を示し、最高値は日平均値の期間最高値を示す。

注 4) 網掛は、各調査地点における日平均値の最高値を示す。

注 5) 環境基準（環境基本法に基づく「二酸化窒素に係る環境基準について」）は、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であることである。

イ 予測条件の状況

① 施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる大気質の状況

a 気象の状況

大気質調査期間中の気象の状況は、表 7.1-16 に示すとおりである。

また、事後調査結果と予測条件における風配図の比較は図 7.1-5 に示すとおりである。

調査を行った四季における期間平均風速は 2.0m/秒であり、最多風向は北西（NW）であった。また、平均気温は 17.9℃、平均湿度は 58%であった。

表 7.1-16 気象調査結果（清掃工場の煙突排出ガスによる大気質調査期間）

調査期間	最多風向 16 方位	平均風速 (m/秒)	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	平均湿度 (%)
秋季(平成 29 年 11 月 6 日～12 日)	WNW	2.0	14.6	21.6	9.1	52
冬季(平成 30 年 1 月 29 日～2 月 4 日)	NNW	1.7	3.9	10.4	-0.9	58
春季(平成 30 年 5 月 28 日～6 月 3 日)	SSE	2.1	22.6	29.6	2.4	59
夏季(平成 30 年 8 月 1 日～8 月 7 日)	SSE	2.1	30.6	39.4	21.2	63
四季平均	NW	2.0	17.9	39.4	-0.9	58

注) 風向・風速は、工場棟屋上にて測定した。

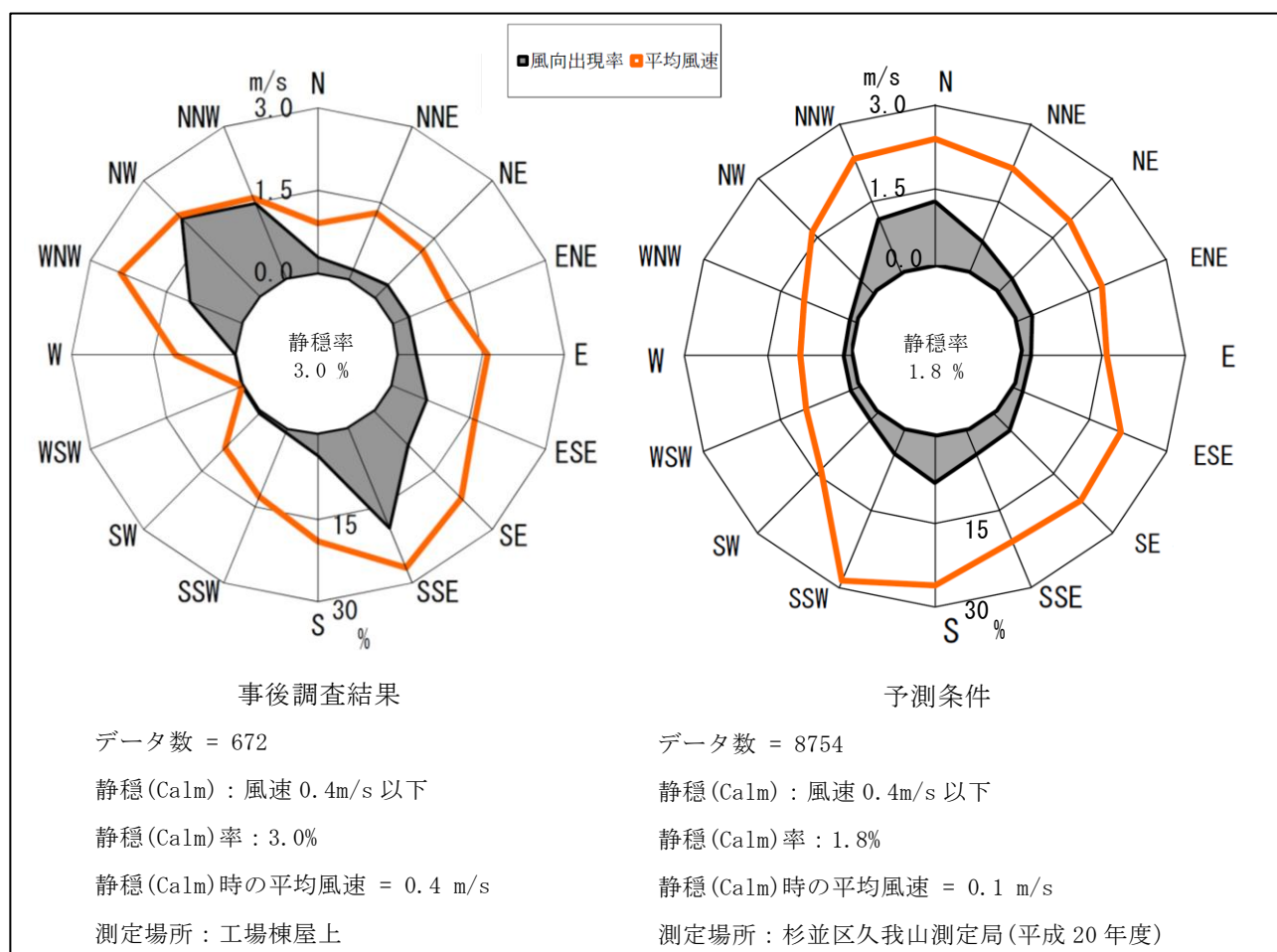


図 7.1-5 事後調査結果と予測条件における風配図の比較

b 排出物質濃度等

煙突排出ガス中の汚染物質における事後調査結果と予測条件との比較は、表 7.1-17 及び表 7.1-18 に示すとおりである。ここで、煙突排出ガス中の汚染物質の予測条件は、自己規制値を基に設定した値である。この値は法規制値以下の値で、かつ、計画時の技術水準及び経済性を考慮して確実に守ることができる値として設定したものである。

事後調査結果は、全ての項目について、法規制値及び自己規制値（予測条件）を下回った。

表 7.1-17 煙突排出ガス中の汚染物質濃度測定結果

測定期間：平成 30 年 1 月 29 日（月）～2 月 4 日（日）

測定項目		単位	事後調査結果			予測条件	自己規制値	法規制値
			1 号炉	2 号炉	合計			
排ガス量	湿り	m ³ N/h	59,100	52,500	111,600	267,500	—	—
	乾き	m ³ N/h	50,200	45,200	95,400	233,500	—	—
平均流速		m/s	12.6	11.2	—	—	—	—
排ガス温度		℃	202	198	—	190	—	—
水分		v/v%	15.0	14.0	—	—	—	—
いおう 酸化物	測定値	ppm	0.5	0.5	—	—	—	—
	12%換算値	ppm	0.5	<0.5	—	10	10	91※
	排出量	m ³ N/h	0.025	0.023	0.048	2.34	—	—
ばいじん	測定値	g/m ³ N	<0.001	<0.001	<0.001	—	—	—
	12%換算値	g/m ³ N	<0.001	<0.001	<0.001	0.01	0.01	0.04
	排出量	kg/h	<0.050	<0.045	<0.095	2.34	—	—
窒素 酸化物	測定値	ppm	59	54	57	—	—	—
	12%換算値	ppm	32	32	32	50	50	85※
	排出量	m ³ N/h	3.0	2.4	5.4	11.68	—	—
塩化水素	測定値	ppm	<1	<1	<1	—	—	—
	12%換算値	ppm	<1	<1	<1	10	10	430
	排出量	m ³ N/h	<0.05	<0.05	<0.10	2.34	—	—
水銀	測定値	mg/m ³ N	(0.8)	(0.7)	(0.8)	—	—	—
	12%換算値	μg/m ³ N	(0.3)	(0.3)	(0.3)	50	—	50
	排出量	g/h	0.040	0.036	0.076	11.68	—	—
排ガス 組成	CO ₂	%	14.1	13.5	13.8	—	—	—
	O ₂	%	5.2	5.9	5.6	—	—	—
	N ₂	%	80.7	80.6	80.7	—	—	—
	空気比	—	1.32	1.38	1.40	—	—	—

注 1) 表中の<は定量下限値未満であることを示す。

注 2) 表中の()は検出下限値以上、定量下限値未満であることを示す。

注 3) 測定結果は 7 日間平均値である。

注 4) 定量下限値未満の測定値は定量下限値を用いて平均値を算出した。

※) 総量規制の規制値を濃度換算したものである。

表 7.1-18 煙突排出ガス中のダイオキシン類測定結果

単位：ng-TEQ/m³

測定日	1号炉	2号炉	平均	法規制値 (予測条件)
平成29年11月8日	0.000036	0.00000096	0.000018	0.1
平成30年1月30日	0.000070	0.000021	0.000046	0.1

注) 測定は各測定日において、各炉4時間の試料採取により行った。

c 施設の稼働状況

煙突排出ガス量等の測定結果は、表 7.1-19 に示すとおりである。

調査期間中における平均ごみ焼却量は543t/日(24時間連続稼働)であり、定格焼却量(600t/日)の約91%であった。

湿り排ガス量及び乾き排ガス量は予測条件と比較して減少しているが、これは燃焼排ガスの一部を燃焼用空気として再使用する、排ガス再循環設備(p.12 図 5.2-5 参照)を導入したことや、平均ごみ焼却量が定格焼却量よりも少なかったことによるものと考えられる。

表 7.1-19 煙突排出ガス量等

測定期間：平成30年1月29日(月)～2月4日(日)

測定項目	単位	1号炉	2号炉	合計	予測条件 (2炉合計)
排ガス温度	℃	202	198	—	190
排ガス水分量	%	15.0	14.0	—	—
湿り排ガス量	m ³ N/h	59,100	52,500	111,600	267,500
乾き排ガス量	m ³ N/h	50,200	45,200	95,400	233,500
ガス組成(O ₂)	%	5.2	5.9	—	—

注) 値は測定期間中の平均値である。

d 一般環境大気質(バックグラウンド濃度)

予測時点でバックグラウンド濃度の設定等を利用した清掃工場周辺の一般環境大気測定局における観測データは、表 7.1-20(1)及び(2)に示すとおりである。

表 7.1-20(1) 一般環境大気測定局の観測データ（期間平均値）

調査期間 秋季：平成 29 年 11 月 6 日（月）～12 日（日）
 春季：平成 30 年 5 月 28 日（月）～6 月 3 日（日）

測定項目 測定局名		二酸化いおう (SO ₂) 単位:ppm			浮遊粒子状物質 (SPM) 単位:mg/m ³			二酸化窒素 (NO ₂) 単位:ppm		
		秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季
東京都	世田谷区 世田谷測定局	0.001	0.001	0.001	0.022	0.016	0.019	0.021	0.010	0.015
	世田谷区 成城測定局	—	—	—	0.020	0.015	0.017	0.021	0.009	0.015
	中野区 若宮測定局	0.001	0.001	0.001	0.021	0.017	0.019	0.020	0.009	0.014
	杉並区 久我山測定局	—	—	—	0.021	0.015	0.018	0.021	0.010	0.016
杉並区	区役所前測定室	0.001	0.001	0.001	0.023	0.016	0.020	0.031	0.031	0.031
	富士見丘測定室	0.002	0.001	0.002	0.033	0.025	0.029	0.023	0.012	0.018
	高円寺測定室	—	—	—	0.020	0.019	0.019	0.025	0.017	0.021
	久我山測定室	—	—	—	—	—	—	0.020	0.010	0.015
世田谷区	烏山測定室	—	—	—	0.019	0.014	0.017	0.023	0.011	0.017
	砧測定室	0.001	0.001	0.001	0.018	0.015	0.016	0.021	0.010	0.015
平均値		0.001	0.001	0.001	0.022	0.017	0.020	0.023	0.013	0.018
予測値		0.002			0.026			0.042		

注 1) 値は大気質調査期間中における 1 時間値の期間平均値である。

注 2) 予測値は各物質を測定している清掃工場周辺の一般環境測定局における平成 18 年度から平成 20 年度の年平均値である。

表 7.1-20(2) 一般環境大気測定局の観測データ（期間平均値）（ダイオキシン類）

調査期間 秋季：平成 29 年 11 月 15 日～22 日
 冬季：平成 30 年 2 月 8 日～15 日
 春季：平成 30 年 5 月 16 日～23 日
 夏季：平成 30 年 8 月 22 日～29 日

測定項目 測定局名		ダイオキシン類 単位:pg-TEQ/m ³			
		秋季	冬季	春季	夏季
東京都	世田谷区 世田谷測定局	0.024	0.016	0.015	0.015
(参考) 期間平均値		0.018			
予測値		0.049			

注) 予測値は世田谷区世田谷測定局及び中野区若宮測定局における平成 18 年度から平成 20 年度の年平均値である。
 なお、平成 29 年度及び平成 30 年度の調査では、中野区若宮測定局での測定は行われていない。

② 清掃車両の走行に伴う排出ガスによる大気質の状況

a 気象の状況

大気質調査期間中の気象の状況は、表 7.1-21 に示すとおりである。

また、事後調査結果と予測条件における風配図の比較は図 7.1-6 に示すとおりである。

期間平均風速は 2.0m/秒であり、最多風向は西北西（WNW）であった。また、平均気温は 14.6℃、平均湿度は 52%であった。

表 7.1-21 気象調査結果（清掃車両排出ガスによる大気質の状況調査期間）

調査期間 (平成 29 年 11 月)	最多風向 16 方位	平均風速 (m/秒)	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	平均湿度 (%)
6 日 (月)	WNW	1.3	14.1	21.3	9.1	56
7 日 (火)	SE, WNW	1.4	15.5	21.6	10.5	66
8 日 (水)	NW	1.1	15.1	17.0	12.8	68
9 日 (木)	WNW	3.2	14.6	18.8	12.1	45
10 日 (金)	SE	1.4	13.5	18.6	9.7	52
11 日 (土)	WNW	3.1	16.3	19.6	11.4	45
12 日 (日)	WNW	2.8	12.9	17.5	9.7	38
期間平均	WNW	2.0	14.6	21.6	9.1	52

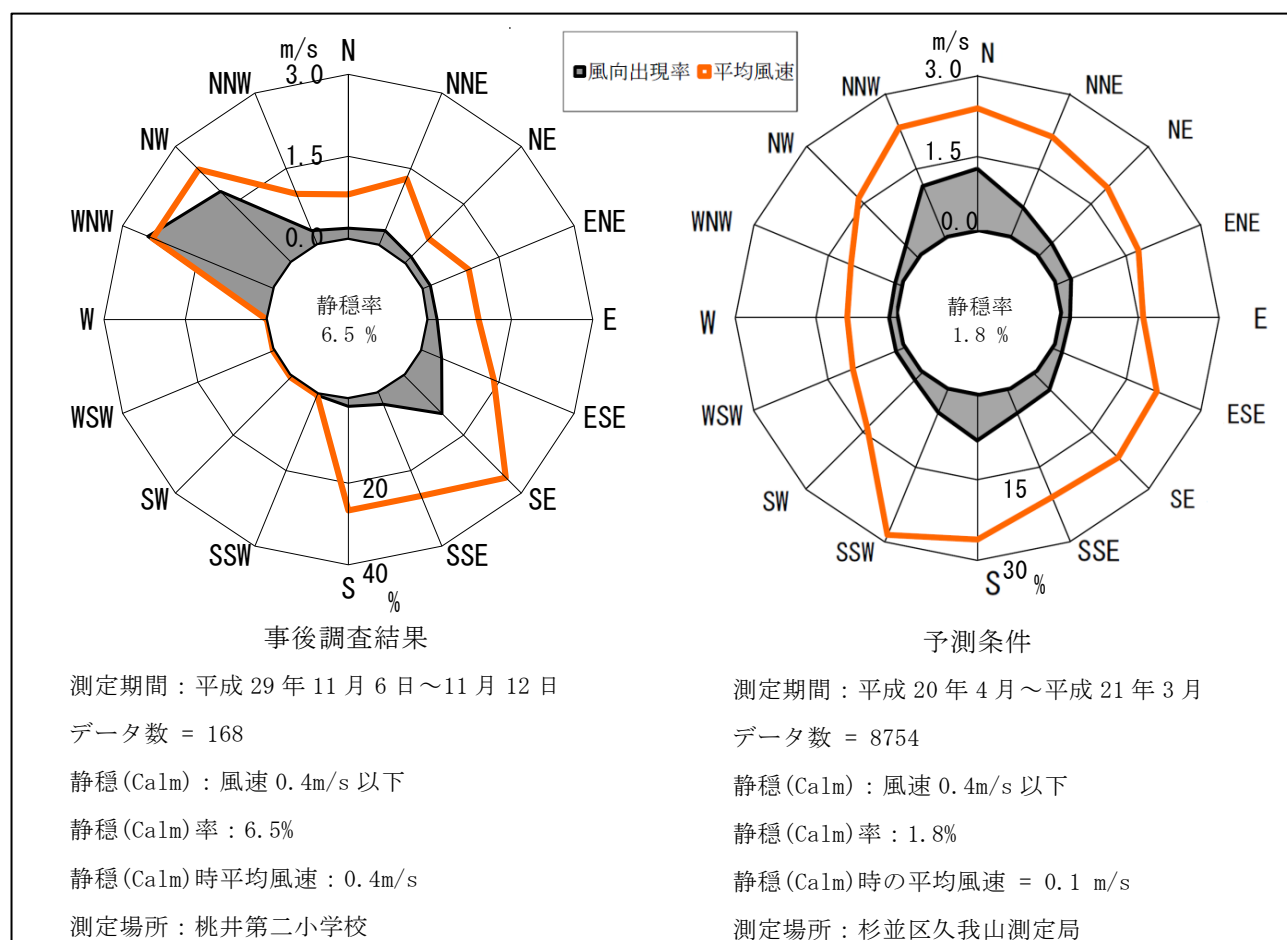


図 7.1-6 事後調査結果と予測条件における風配図の比較

b 清掃車両の台数及び断面交通量

清掃車両の台数及び断面交通量の評価書における予測条件と事後調査結果との比較は、表 7.1-22 に示すとおりである。

各調査地点における予測条件交通量は、地点 1 が 56,419 台、地点 2 が 15,629 台、地点 3 が 25,652 台、地点 4 が 61,829 台、地点 5 が 24,278 台、地点 6 が 11,334 台であり、これに対し、事後調査結果の断面交通量は、地点 1 が 54,290 台、地点 2 が 13,036 台、地点 3 が 23,398 台、地点 4 が 59,689 台、地点 5 が 21,509 台、地点 6 が 10,266 台であり、全ての調査地点で予測条件を下回った。

事後調査結果における清掃車両台数は予測条件に対し、地点 1 では－98 台、地点 2 では－43 台、地点 3 では－47 台、地点 4 では＋18 台、地点 5 では＋18 台、地点 6 では＋150 台であり、調査地点ごとに比較すると事後調査結果と予測条件で差があるものの、全ての調査地点の合計は、予測条件が 1,434 台に対し、事後調査結果が 1,432 台であり、ほぼ同じであった。

各調査地点において、事後調査結果と予測条件で差が生じた理由は、調査日によるごみ収集地域の違いによるものと考えられる。

表 7.1-22 清掃車両の台数及び断面交通量の予測条件と事後調査結果との比較

調査日：平成 29 年 11 月 7 日（火）7:00～11 月 8 日（水）7:00

単位：台/日

地点名	車種 区分	事後調査結果				予測条件				増減		
		清掃 車両	一般 車両	合計	清掃 車両 混入 率 (%)	清掃 車両	一般 車両	合計	清掃 車両 混入 率 (%)	清掃 車両	一般 車両	合計
1 桃井第二 小学校	大型	305	13,322	13,627	2.2	391	16,357	16,748	2.3	-86	-3,035	-3,121
	小型	31	40,632	40,663	0.1	43	39,628	39,671	0.1	-12	1,004	992
2 高井戸 警察署	大型	66	1,535	1,601	4.1	102	1,647	1,749	5.8	-36	-112	-148
	小型	11	11,424	11,435	0.1	18	13,862	13,880	0.1	-7	-2,438	-2,445
3 高井戸西 公園	大型	77	2,062	2,139	3.6	111	2,637	2,748	4.0	-34	-575	-609
	小型	15	21,244	21,259	0.1	28	22,876	22,904	0.1	-13	-1,632	-1,645
4 高井戸 小学校	大型	164	13,342	13,506	1.2	144	17,108	17,252	0.8	20	-3,766	-3,746
	小型	11	46,172	46,183	<0.1	13	44,564	44,577	<0.1	-2	1,608	1,606
5 ヤマト運輸 高井戸宅急 便センター	大型	279	2,405	2,684	10.4	265	3,031	3,296	8.0	14	-626	-612
	小型	37	18,788	18,825	0.2	33	20,949	20,982	0.2	4	-2,161	-2,157
6 杉並区障害 福祉会館	大型	377	1,369	1,746	21.6	235	1,230	1,465	16.0	142	139	281
	小型	59	8,461	8,520	0.7	51	9,818	9,869	0.5	8	-1,357	-1,349
合計		1,432	—	—	—	1,434	—	—	—	-2	—	—

注 1) 大型車：普通貨物車（トラック、大型特殊）、大型清掃車（積載量 2 トンを超えるもの）、バス

注 2) 小型車：乗用車、小型貨物車、小型清掃車（積載量 2 トン以下）

注 3) 清掃車両数は、本事業に関する車両のみとした。

c 一般環境大気質（バックグラウンド濃度）

予測時点でバックグラウンド濃度の設定等に利用した清掃工場周辺の一般環境大気質測定局 10 局における大気質調査期間中の観測データは、表 7.1-23 に示すとおりである。

表 7.1-23 一般環境大気測定局の観測データ（期間平均値）

調査期間 秋季：平成 29 年 11 月 6 日（月）～11 月 12 日（日）

測定局名 \ 測定項目		浮遊粒子状物質 (SPM) 単位：mg/m ³	二酸化窒素 (NO ₂) 単位：ppm
東京都	世田谷区世田谷測定局	0.022	0.021
	世田谷区成城測定局	0.020	0.021
	中野区若宮測定局	0.021	0.020
	杉並区久我山測定局	0.021	0.021
杉並区	区役所前測定室	0.023	0.031
	富士見丘測定室	0.033	0.023
	高円寺測定室	0.020	0.025
	久我山測定室	—	0.020
世田谷区	烏山測定室	0.019	0.023
	砧測定室	0.018	0.021
平均値		0.022	0.023
予測値		0.026	0.026

ウ 環境保全のための措置の実施状況

「6 環境保全のための措置の実施状況」（p. 24 参照）に示すとおりである。

なお、平成 29 年 10 月の本稼働から平成 30 年 9 月までの間に、大気汚染に関する住民からの苦情・問合せは無かった。